

< 曲目解説 >

1 ハーディン：ホルニシモ

作曲者のパートンE.ハーディン博士はオクラホマ大学で学士と博士号の学位、およびウィチタの大学で学位を取りました。ウィチタ（カンザス）公立学校、サウスカロライナ大学、ペンシルバニア・ステートカレッジおよび東イリノイ大学で名誉教授として教えました。彼は教育経歴と同時にジョージア、イリノイ、インディアナ、ノースカロライナおよびサウスカロライナの地方オーケストラの中でホルン奏者として演奏しました。 曲は荘重なファンファーレで始まり、行進曲風のテーマが登場、最後はまた荘重に終わります。曲名のホルニシモですがフォルテの倍の強さがフォルテシモということから、ホルンの倍？がホルニシモということでしょうか？

2 ビゼー/ターナー：カルメン組曲

オペラ「カルメン」は竜騎兵ドン・ホセが恋多き女カルメンに誘惑され、婚約者を捨てて軍隊を脱走、しかしカルメンは闘牛士に心を移し、嫉妬に狂ったドン・ホセは七首をもって追いかけてカルメンを刺し殺すという物語。管弦楽で演奏される事も多いこの名曲をアメリカン・ホルン・カルテット主宰のターナーがホルン4重奏に編曲。ホルンを知り尽くしたダイナミックな編曲で前奏曲、アルカラの竜騎兵、間奏曲、ジプシーの踊りの4曲で構成される。

3 プラームス/ロビンソン：交響曲第三番～第四楽章

交響曲第3番へ長調作品90は、1883年5月から10月にかけて作曲された。プラームスの交響曲の中では演奏時間が最も短く、新鮮かつ明快な曲想で知られる。初演者ハンス・リヒターは、「この曲は、プラームスの『英雄』だ。」といったという。しかし、当のプラームスはこの曲の標題的な要素については何も語っていない。両端楽章で英雄的な闘争をイメージさせる部分もあるが、その根底に流れているのは、ロマン的な叙情や憂愁と考えられる。本日はその第四楽章をホルン8本に編曲した版で演奏致します。

4-1A ニコラス・J・ペッリーニ：FESTIVAL FANFARE

ペッリーニはアメリカのホルン奏者。多くの後進を育てたことでも知られ、このファンファーレもホルン・アンサンブルの「マストアイテム」として広く演奏されている。

4-1B モーツァルト：ディヴェルティメント 第二楽章 K.439b

ディヴェルティメントは18世紀後半、特にオーストリアで流行した嬉遊曲。オリジナルは2本のクラリネットとバスーンのためのトリオ変ロ長調ですが、本日は岡山ホルンクラブを代表して3本のホルンでお送りします。

4-2 小林健太郎：「ホルン10重奏のための断章」 Five Fragments “Complications” For 10 Horns 委嘱新作(東京公演のみ)

今回のAHEJの定期演奏会、前回に引き続いて作品を書かせていただくことになり、大変光栄に思い、同時に感謝の気持ちでいっぱいです。しかし委嘱2作目というのは1作目以上に緊張するものですね。「昨年以上の物を…」という自らに課した目標は大きなプレッシャーになりましたが、なんとか完成させることができました。さて、今回の曲は私が普段感じる「葛藤」「焦燥感」「使命感」という3つの言葉をイメージして作曲しました。曲は冒頭、ソロとテュッティによるテーマ提示の後、「一時の安堵感～Lento～」「葛藤の始まり～Poco Misterioso～」「焦りながらもー休み～Andante～」「使命感にかられる時～行進曲～」「葛藤と使命感の狭間で～再現部～」という5つの部分に分かれています。これは私の勝手な考えですが、あるホルン吹きが悪戦苦闘しながら作曲しているさまを描いた架空のサウンドトラックだと思って聞いていただければ面白いかと思います。（文：小林健太郎氏）

5 バガニーニ/小林健太郎：24のカプリースより第24番

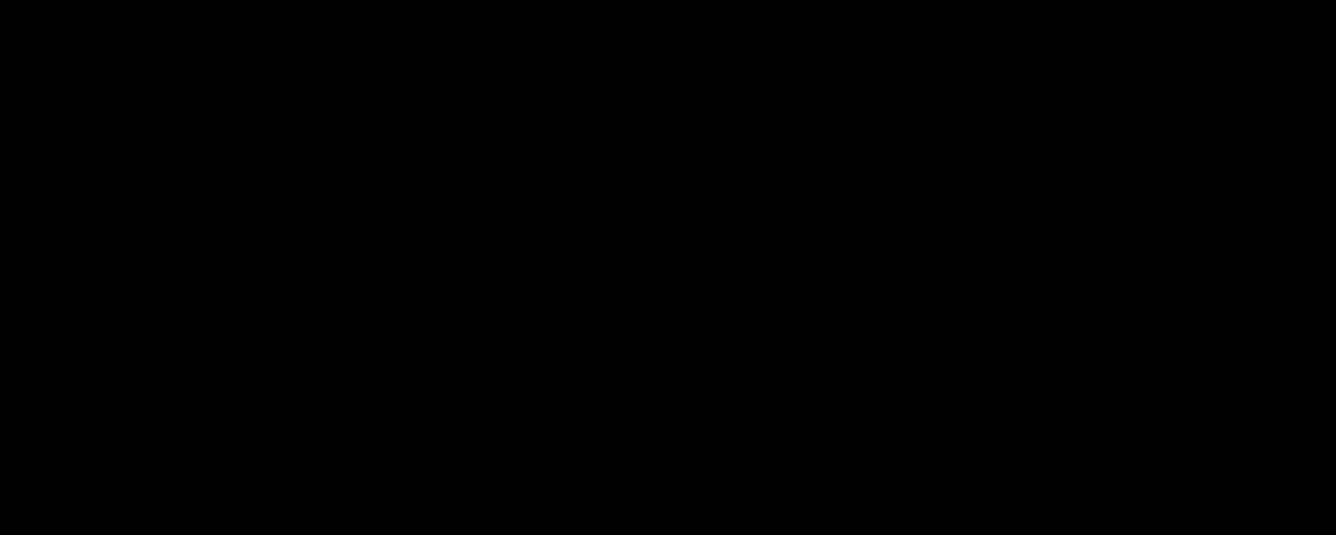
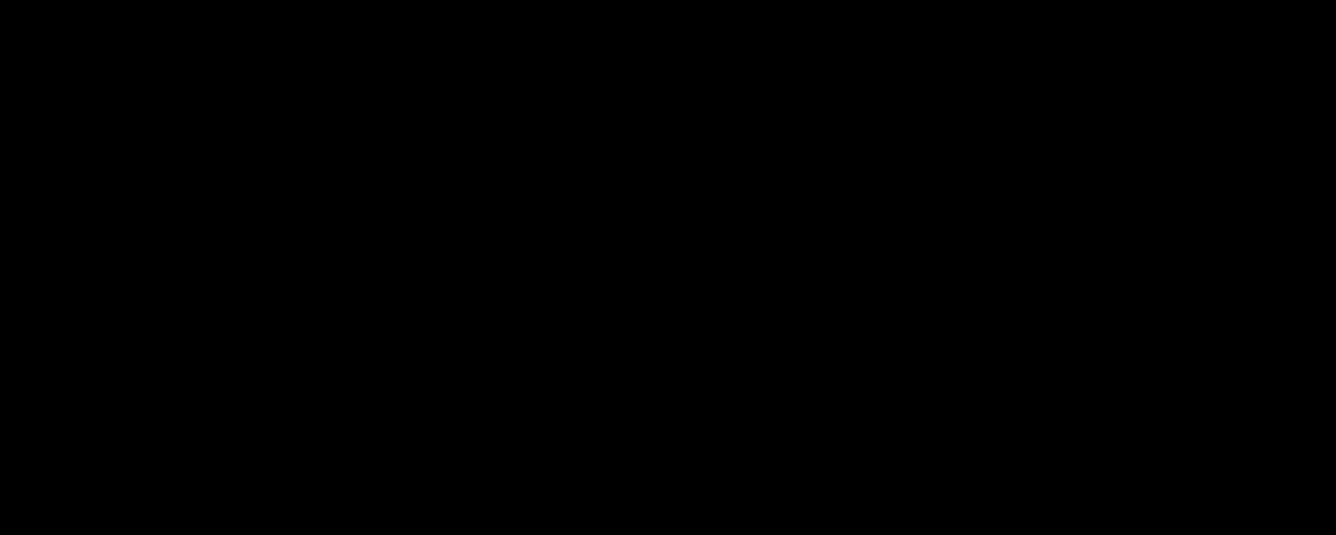
バガニーニはヴァイオリンの鬼神と呼ばれ、当時はそのヴァイオリン演奏のあまりの上手さに、「バガニーニの演奏技術は、悪魔に魂を売り渡した代償として手に入れたものだ」と噂されたという。そのため彼の出演する演奏会では聴衆が本気で十字架を切ったり、本当にバガニーニの足が地に着いているか彼の足元ばかり見ていた観客もいたという。それどころか死後に教会から埋葬を一時拒否すらされたほどである。作曲家としても活躍しヴァイオリン曲を残したが、特に『24の奇想曲』の最終曲「主題と変奏イ短調」の主題は他の作曲家に繰り返し用いられた。この難曲を小林さんにホルン3本に編曲していただきました。

6 エーダー：シーンⅡ

オーストリアの作曲家ヘルムート・エーダー Helmut Eder（1916～2005）は作曲家にして合唱指揮者。オルフやベルクやリゲティに学び、俗謡調の作風も感じられる。1959年からは電子音楽に傾注した。6つのオペラ、4つのバレエ、7つの交響曲、3つのヴァイオリン協奏曲、1つのチェロ協奏曲などを残した。この曲は1977年にベルリン・フィル首席ホルン奏者ゲルト・ザイフェルトの為に書かれた。一つのリズムを変拍子風に多用した前半部からミニマル・ミュージックを思わせる中間部、一番ホルンのカデンツァっぽいフレーズを経て最後は6人が一つになり盛大に終わる。

7 ワーグナー：神々の黄昏・ファンタジー

ニーベルングの指環の物語。それは、全世界の支配を可能とする魔法の指輪をめぐる、神、英雄、神話上のいくつかの生物の戦いの物語である。神代の終わりの、最終的な大洪水まで、ドラマと陰謀は三世代にわたって続く。第三夜 楽劇『神々の黄昏』で陰謀から記憶を失ったジークフリートは、ブリュンヒルデと愛を誓ったことを忘れる。ブリュンヒルデは復讐を誓い、ジークフリートを死に至らしめる。指輪を手に入れたブリュンヒルデは、ラインの娘たちに指輪を返し、ヴァルハラは崩壊する。有馬氏のこの版は楽劇『神々の黄昏』第三幕からの抜粋による。冒頭は3幕の最初で、中間部は第2場から第3場の間奏のジークフリートの葬送行進曲。後半はオペラの終わりの方をつなく形で構成される。



ALEXANDER HORN ENSEMBLE JAPAN

2006年2月17日（金）

会場：岡山県立美術館ホール

主催：ヤマハミュージックトレーディング(株)

後援：岡山エフエム放送株式会社

岡山放送株式会社

山陽新聞社

RSK テレビせとらち

RSK 山陽放送

協賛：ヤマハミュージックトレーディング(株)

岡山県内特約楽器店

協力：アレキサンダーホルンオーナーズクラブ

第5回定期演奏会

2006年2月18日（土）

会場：東京文化会館小ホール

主催：アレキサンダーホルンアンサンブルジャパン

協賛：ヤマハミュージックトレーディング(株)

<岡山ホルンクラブの紹介>

岡山ホルンクラブは岡山県在住のアマチュアホルン奏者を中心に今日の演奏会のためだけに結成されました。日頃はそれぞれのオーケストラ、吹奏楽団、アンサンブルグループ等で活動していますが、今回アレキサンダーホルンアンサンブルジャパンの特別演奏会で共演してみませんか?とのお誘いを受け、日頃のホルン仲間が集まりました。今夜はAHEJの皆さんとの共演をとても楽しみにしています。

CDの紹介

JUPITER（2004年12月24日発売）
マイスター・ミュージック（MM-1174）
価格：税込定価¥3,060（本体¥2,914）

収録曲

R.ワーグナー：ジークフリートのラインへの旅
『神々の黄昏』より（10重奏）

G.ホルスト：木星 組曲『惑星』より（10重奏）

W.A.モーツァルト：序曲 フィガロの結婚より（8重奏）

K.ターナー：ダブリンの幽霊 委嘱作品（8重奏）

E.ボザ：森にて（5重奏）

W.パーキンス：4本のホルンのための協奏曲

■特別ゲスト

野見山 和子 *Kazuko Nomiyama*

福岡県出身。98年3月近畿大学附属女子高等学校普通科卒業。98年4月くらしき作陽大学音楽学部音楽学科(ホルン専攻)入学。02年3月くらしき作陽大学音楽学部音楽学科(ホルン専攻)卒業。02年4月、桐朋学園大学研究科入学。これまでにホルンを山田真、田中 正大、瀬尾 達也、今井 仁志の各氏に師事。2003年8月より日本フィルハーモニー交響楽団団員。2005年1月より東京都交響楽団契約団員。

103MBL／アレキサンダーNO.23金メッキ仕様

3：久永 4：野見山 5：金子 6：大東 7：和田 8：阿部

2 ビゼー/ターナー編曲：カルメン組曲

Gerges Bizet / Arr by Kerry Turner：Carmen Suite

1：西條 2：今井 3：和田 4：勝俣

3 ブラームス/ロビンソン編曲：交響曲第三番～第四楽章

Johannes Brahms/ Arr by Robinson：Symphony No.3～4th movement

1：金子 2：久永 3：西條 4：野見山 5：有馬 6：大東 7：勝俣 8：阿部

———— 20分休憩 ————

4-1A（岡山公演のみ） フェスティバル・ファンファーレ

Nicholas J.Perrini: FESTIVAL FANFARE

岡山ホルンクラブ：岡田信一、柿内美緒、木元愛、嶋田裕美、清水恵、セドラチェック・アンデル、セドラチェック・ダビデ、田中まどか、田中裕子、橋本あかり、濱田裕貴、藤井実、森由美子、薬師寺祐江、吉田藍子、渡辺美菜、渡辺由美

4-1B（岡山公演のみ） モーツァルト：ディヴェルティメント 第二楽章 K.439b

W.A.Mozart / Arr by Robert C. Walshe: Divertimento No.2 K.439b

岡山ホルンクラブ：1：橋本あかり 2：田中裕子 3：渡辺由美

4-2（東京公演のみ） 小林健太郎/Five Fragments “Complications” For 10 Horns 委嘱新作

Kentaro Kobayashi Five Fragments “Complications” For 10 Horns

1：今井 2：有馬 3：久永 4：大東 5：金子 6：西條 7：和田 8：勝俣 9：野見山 10：阿部

5 パガニーニ/小林健太郎編曲：24のカプリースより第24番

Niccolò Paganini/ Arr by Kentaro Kobayashi：24 Caprice～No.24

1：久永 2：金子 3：野見山

6 エーダー：6本のホルンの為のシーンⅡ作品69,Nr.2

Helmut Eder：Szene II Für 6 Hörner Op. 69,Nr.2

指揮：有馬 1：今井 2：西條 3：和田 4：大東 5：勝俣 6：阿部

7 ワーグナー/有馬純晴編曲：神々の黄昏・ファンタジー

Richard Wagner/Arr by Sumiharu Arima：Götterdämmerung・Fantasie

1：有馬 2：野見山 3：久永 4：勝俣 5：今井 6：大東 7th：西條（バンド1） 8：金子

9：和田（バンド2） 10：阿部（7th～10thはワーグナーチューバ兼任）